

資料① 令和2年度 社小学校教職員による自己評価

※採点：4…できた 3…ややできた 2…ややできなかった 1…できなかった

1 研修について

(1) 主体的な研修≪2.4≫

「誰もが個性や能力を発信する研修の場を創造し、研修を高め合う。」

【成果や課題】

- 今年度は、研修の場が少なかったが、関西大学初等部古本温久先生にリモートで指導いただけたことがよかった。
- 一人一人研究組織に属し、発言できる機会が多く設定されていた。学年や学年層での検討会の機会が保障されていた。
- コロナ感染予防のため、授業を見合う機会が少なく、全体研修が一度しかもてなかったため、研修を深めることができにくかった。

【改善・確認事項】

★コロナの状況を見ながら、全員が研究授業を行えるように計画し、リモート研修等で意見の交流ができるように工夫していく。

(2) 検証的な実践≪2.7≫

「研究の道筋を具体的にし、その検証に努め交流によって深める。」

【成果や課題】

- 授業の中で思考ツールを使ったときに、どのような効果があったのか、今後どのように使っていくか等の検証ができた。児童も思考ツールの活用慣れてきている。
- 学年で子どもたちにつけたい力を明確にし、そのための手立てを考えて実践することができた。
- 学年層に限った交流だった。
- 思考ツールの活用が目的となり、思考スキルの育成ができたか、少し疑問が残る。

【改善・確認事項】

★研究テーマについて研究の目的、方法、めざす児童の姿、児童にどのような力を積み上げていくのかを明確にする。思考スキルが育成できたかどうかの検証を行う。

(3) 思考ツールやICT機器を使った実践の検討≪3.0≫

「思考力・判断力・表現力を育成するために思考ツールやICT機器を活用した授業づくりを推進する。」

【成果や課題】

- 一人一台タブレットを効果的に活用する授業作りに取り組んだ。ICTを活用することにより、視覚的に分かりやすい授業を行うことができた。
- 思考ツールを積極的に活用することで、教師も児童も思考の整理をすることができた。
- 思考ツールの効果的な活用まではできなかった。通級指導の授業形態では、あまり活用できなかった。

【改善・確認事項】

★思考ツールの効果的な活用についての研修を行う。（具体的にどのような場面でのツールを使うと効果的か。）

★一人一台タブレットの効果的な活用についての検討、研修を行う。

★小中一貫教育を視野に入れながら、思考ツール、協同学習、ICT活用について取り組む。

（4）互恵的な学習文化<<2.2>>

「互いの学びを持ち寄り、支え合い教え合い、深め合う学習を定着させる。」

【成果や課題】

●コロナ禍のため、ペア学習やグループ学習で教え合ったり深め合ったりする学習を行うことはできなかった。

【改善・確認事項】

★タブレットを活用し、密を避けたグループ学習の方法を検討し、学年に応じて実践する。

★一斉学習でも学び合うことができる。発問や発言の仕方、児童同士の発言のつなぎ方を意識し、児童の学びが深まるような授業づくりをする。

（5）学力の定着<<2.6>>

「基礎基本の定着を図り、学力を高めさせる。」

【成果や課題】

○家庭学習の充実を図ることで、児童の基礎基本の定着に努力した。

○基礎基本を大切に、朝の学習タイムを有意義に行うことができた。（漢字の反復練習や算数の小テスト等を繰り返し行う。）児童は、点数が取れることに自信をもち、進んで学習する姿も見られた。実際平均点も上がってきた。

●基礎学力がなかなか定着しない児童もいる。

【改善・確認事項】

★タブレットドリル等を有効に活用し、反復練習を行い基礎学力の定着を図る。来年度も朝の学習を効果的に組み入れた学習形態を継続する。

★自主学習の手引きを再確認し、学力が定着できるような自主学習に取り組ませる。

2 組織について

（1）計画的なケース会議 学年会議<<3.5>>

「時には広く、時には深く情報を集め、継続的・重点的なチーム指導を進める」

【成果や課題】

○生徒指導委員会、不登校対策委員会、学年会などで情報の共有が図られている。継続的に指導を進めることができた。

●学年会は、定期的に行っているが、保護者からの電話対応等で中断することが多かった。

【改善・確認事項】

- ★定期的な学年会を継続し、可能な限り担任外の教職員も出席する。会議中は、電話の取り次ぎをしない。
- ★学年会ノートの共有（生指、不登校、児童支援、特支、養護、SC等）を継続。

（2）協同的な特支教育＜3. 0＞

「児童理解を全校的に深め、よりインクルーシブな学びの場をつくる。」

【成果や課題】

- 特別支援学級で学習したことを発表したり、交流学級での国語の授業に参加させてもらったり、成果物を交流したりと互いの学びの成果を認め合う機会をもつことができた。
- 特別支援学級で頑張っていることや配慮が必要なことを、交流学級で他の児童に伝えることができ、理解を得ることができた。
- 啓発朝会がもてず、全校生にうまく発信できなかった。

【改善・確認事項】

- ★特支担と交流担との連携を密にし、児童理解がより一層深まるように取り組む。

（3）サポートファイルの効果的な活用＜2. 9＞

「個別の支援計画・指導計画を活用し、各関係機関と連携して個に応じた支援を継続する。」

【成果や課題】

- サポートファイルから、児童の実態や課題を捉えられたので、各関係機関への確かな情報提供をすることができた。関係機関と連携することで、児童への理解が深まった。
- 個別の支援計画、指導計画を作り、指導の見通しをもつことができた。
- 設定した計画や目標を意識することはできたが、配慮できない部分もあった。配慮を要する児童が気持ちよく過ごすことには課題が残った。

【改善・確認事項】

- ★毎週の学年会や年度末の引き継ぎ等で、サポートファイルや行動の記録を活用するように、職員間で声をかける。

（4）組織的な生徒指導＜3. 3＞

「いじめ未然防止、早期発見、早期対応を組織的に行う。」

【成果や課題】

- 学級、学年での問題行動について、学年主任や生活指導担当が中心となり、連携して指導にあたっている。保護者への連絡も丁寧に行っている。
- 生活アンケートをこまめに行っていることで、児童の悩みや困っていることが早期発見でき、早期対応につながっている。関係職員に相談し、日常的な情報交換ができている。

【改善・確認事項】

- ★アンケートを行う際は、担任外が行う機会も継続してもつ。
- ★4委員会（研推・生指・情報・食育）を月1回開催する。

3 職場環境について

(1) 勤務時間の適正化<<2. 3>>

「計画的・効果的に業務を行い、勤務時間の適正化を推進する。」

【成果や課題】

- 定時退勤日（毎週木曜日 6 時退勤）は 100%で守れている。
- 教師の仕事に区切りはなく、思いが強ければ強いほど業務は増える一方だが、コロナ禍を通して、業務の精選、効率化を考えることができた一年だった。
- 計画的、効果的に業務を行っていても、勤務時間内に業務を終えることは難しい。持ち帰りや休日出勤をしている現状がある。
- コロナ禍による行事内容の変更や調整にスムーズに対応できないこともあり、コロナ対応によって多大な負荷になっている。

【改善・確認事項】

★コロナ対応により、本年度の行事や業務内容を精選、縮小したことを基に、来年度も精選、縮小を検討し、業務改善を図る。

(2) 風通しのよい職場づくり<<2. 9>>

「職員誰もが自分の意見を発言したり、相談し合ったりして、児童に関する情報や教育実践の成果を共有する。」

【成果や課題】

- チームワークがよく職員室内や学年内において、いつでも相談できる環境にある。
- 報告、連絡、相談がよくできている。
- 学年、学年層、地区担当、生活指導等が連携、協働し、児童の情報が共有できた。
- 学年会議や打ち合わせが定期的に行われており、情報をしっかり共有できたが、他の学年との交流が難しく、あまり情報を共有できなかった。
- コロナ禍の中で、トップダウンの提案が多くなってしまったように思う。

【改善・確認事項】

★生活指導委員会での協議内容や決定事項は、これまでと同様、学年会議で伝え、情報を共有する。

4 環境について

(1) 意欲向上の掲示物<<3. 0>>

「学習意欲が向上する計画的・継続的な掲示を工夫する。」

【成果や課題】

- 教室内や廊下、学年の掲示板、職員室前廊下の掲示板等、児童の学習の成果や意欲が表れている。立ち止まって見ている児童も多い。
- 職員室前の自学ノートの掲示の継続は、児童の意欲向上に効果的であった。また、本年度の研究である思考ツールの掲示も、視覚的にそのツールを見慣れたことが、学習効果につながったと思う。

●季節の掲示物が古くなっている物がある。タイムリーな掲示ができなかった。

【改善・確認事項】

★古くなった季節の掲示物を更新する。

★单元ごとにタイムリーな学習掲示ができるよう、継続的に取り組む。

(2) 美しく安全な学校<<3. 1>>

「きちんと清掃・修理・整理され、そして、花いっぱい为学校を維持する。」

【成果や課題】

○全職員に分かるように、消耗品の管理場所を見直した。

○玄関前等、絶やすことなく美しい花が飾られている。定期的に校内安全点検ができており、担当が修理できることと業者に依頼することが整理されている。

●清掃時間に私語が多い。トイレのスリッパがそろっていない。

【改善・確認事項】

★教師が進んでもくもく掃除、みつけ掃除を徹底させる。

★トイレのスリッパをそろえる取組をキャンペーン的にする。

(3) 新型コロナ対応<<3. 2>>

「体温の確認、マスク着用、手指消毒、手洗い等の声掛け及び指導、教室の換気・施設の消毒等を行う」

【成果や課題】

○養護教諭を中心に、社小学校のマニュアルを整えてもらい、全教職員が感染予防に努めることができた。新しい生活様式が定着してきた。

●マスクをせずに話している児童がいるので、徹底していきたい。

【改善・確認事項】

★コロナ対応で困っていることや負担になっていることがあれば出し合い、過度な負担にならないように学校全体で工夫していく。

★コロナ予防について、委員会からの発信やほけんだより（配布時に児童と一緒に目を通す等）を活用し、啓発的な活動を進めていく。

5 開かれた学校について

(1) 積極的な情報提供<<3. 4>>

「各種通信、HP、学校オープン等で学校情報を保護者、地域に提供する。」

【成果や課題】

○臨時休校の際には、HPや一斉メール配信が活用され、保護者の安心につながった。学年便り、学級通信等で、クラスの様子がよく伝えられている。

【改善・確認事項】

★今後もHPや学校便り、学年便り、学級通信等で学校の様子を伝えていく。

(2) 地域の活用<<1. 9>>

「授業や行事などで地域を活用するとともに、感謝の心を育てる。」

【成果や課題】

- コロナ禍でも地域のヒトの活用は難しいが、モノ・コトの活用は可能である。
- 間接的な交流を考える必要があるので、お手紙、お尋ね、アンケート等から行う。

【改善・確認事項】

- ★オンラインを活用したゲストティーチャーはできないか。
- ★小中一貫教育を見据え、地域を活用した総合的な学習のカリキュラムを作成してはどうか。

6 自律力について

(1) 主体的な規範意識<<2. 8>>

「ルールやマナーの理由を児童自ら考えさせ、児童会からの積極的な発信を促す。」

【成果や課題】

- コロナ禍であったが、あいさつキャンペーンやごりようが丘フェスティバルのダンス等、児童会を中心に活動することができた。
- 社っ子委員会からの議題を受けて、全校生で学校生活をよくしたり、行事を盛り上げたりできた。
- ルールやマナーについて考えさせることができず、教えることが多かった。

【改善・確認事項】

- ★定期的に火曜日の朝学の時間に、ICTを利用したリモート朝会を行い、児童会、委員会からの啓発を行う。(マナーやルールについても)

(2) 熱心な清掃活動<<2. 9>>

「すべきことを与え、考えさせ、掃除を最後まで頑張る児童を育てる。」

【成果や課題】

- 全体的には、時間いっぱいまで一生懸命掃除をする姿が見られた。上級生が下級生を指導する場面も見られた。
- 私語が多い児童がいるのが気になる。児童間での取り組みに差がみられる。

【改善・確認事項】

- ★しゃべらずにもくもく掃除、みつけ掃除ができるように、委員会主導で取り組む。振り返りも行う。

(3) 継続的な「挑む」「あきらめない」場<<2. 8>>

「自分の目標や学級・学校づくりに挑み振り返る、継続的な場を設営する。」

【成果や課題】

- 学年目標を合言葉に、自分の目標を決め取り組ませた。自分のがんばりを振り返り時間を大切にしたり。
- 一部の児童にネガティブな発言がみられ、それが広がる傾向が気になる。

【改善・確認事項】

★行事や普段の教育活動の中で、「挑むこと」「あきらめないこと」の価値付けを行う。学校目標や学年目標、学級目標の振り返りを学期末や学年末に行う。

7 自治力について

（1）丁寧な準備≪2. 8≫

「児童が主体的な話し合いや活動に安心して臨めるよう準備する。」

【成果や課題】

- 前もって、自分の考えが書き込める思考ツールを活用したり、座席の配置に気を配ったりして、主体的な話し合いの場を意識した。
- 事前に準備をし、見通しをもって取り組ませることができた。必要に応じて、話し合いの手順やワークシートを準備した。
- 話し合いが苦手な児童への手立てが必要であった。国語科以外では、できていないことが多かった。

【改善・確認事項】

★話し合いをスムーズに進行するために、「学級会のすすめ方・話し合いのワザ」を活用する。話し合いシートもあるので、自分の意見をもって話し合いに参加させるようにする。

（2）元気な遊び集団≪2. 9≫

「仲間とともに外で元気に遊ぶ集団をつくるとともに、教師もともに遊ぶ。」

【成果や課題】

- 外遊びをする児童が多かった。教師も一緒に遊んだり、週1回みんな遊びを設定したりした。担任外の教師にも児童の様子をよくみてもらった。
- 外で元気に遊ぶことはできたが、遊具の使い方やルールを徹底させることができなかった。

【改善・確認事項】

★遊びの中で、児童理解を深めるとともに、トラブルがあった時は、ルールやマナーの大切さについて考えさせる機会にする。

（3）次に生かす振り返り≪2. 7≫

「自立と共生を視点に、話し合いや活動を具体的に振り返らせる。」

【成果や課題】

- 学習、生活、委員会活動、行事等で振り返りをすることが定着しているので、その他の活動にもその振り返りが生かしている。
- コロナ禍のため、話し合い活動はしにくい状況だった。活動の振り返りはできたが、それを受けて次にどうするのかの話し合いができなかった。

【改善・確認事項】

★今後も行事や話し合い活動の後に、必ず振り返りをさせるようにする。
★グーグルアンケートを活用した振り返りも検討する。

8 それぞれの教職員からの意見

(1) 道徳教育(3.2)

○はげみ通信(通知表)を見る限り、エビデンスを踏まえた評価がしっかり行われている。

【改善・確認事項】

★道徳の授業研究を学年層で1本計画する。

(2) 食育推進

【成果や課題】

○クッキングチャレンジシートの積み上げが表れている。食育や家庭での調理等、よい取組になっている。

○給食センターの献立の工夫や食材に関する掲示、配布物は効果的であった。

●コロナ対策のため、長時間の食事ができず時間制限があり、残菜が多くなった。

【改善・確認事項】

★計画的に講師を招いて、食に関する指導を行う。

(3) ICT

【成果や課題】

○一人一台タブレットの活用が多くなっている。学習内容に合わせて、デジタル教科書や動画視聴、タブレットドリル等を効果的に活用した。

【改善・確認事項】

★ICT支援員と協力して、効果的なICTの活用を行う。一人一台タブレットを効果的に使った授業デザインについて研修を行う。

(4) 人権教育

【改善・確認事項】

★「加東市人権学習カリキュラム」を活用し、人権学習の共通理解を図ると共に、人権学習に取り組む。風の子学級についても全職員で共通理解を図る。

(5) 不登校対策

【成果や課題】

○担任、不登校担当を中心に、養護、SC等、児童の気持ちに寄り添いその場に応じて対応している。ステップルームの追加により、落ち着いて学習できる環境を整えている。

【改善・確認事項】

★継続して、管理職、担任、担当、養護、SC、関係機関等と連携して、改善できるように努めていく。